

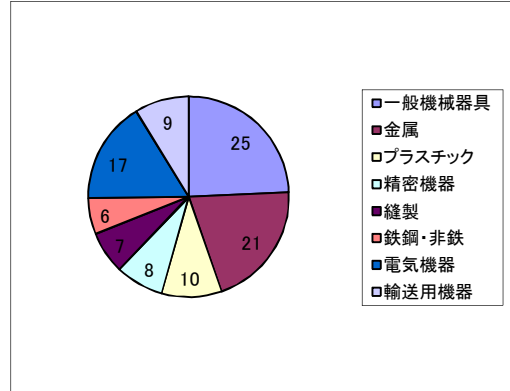
# 受注動向

-2011.8-

- 調査時点 平成23年7月調査(平成23年6月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 103社(回答率:68.7%)

## <業種内訳>

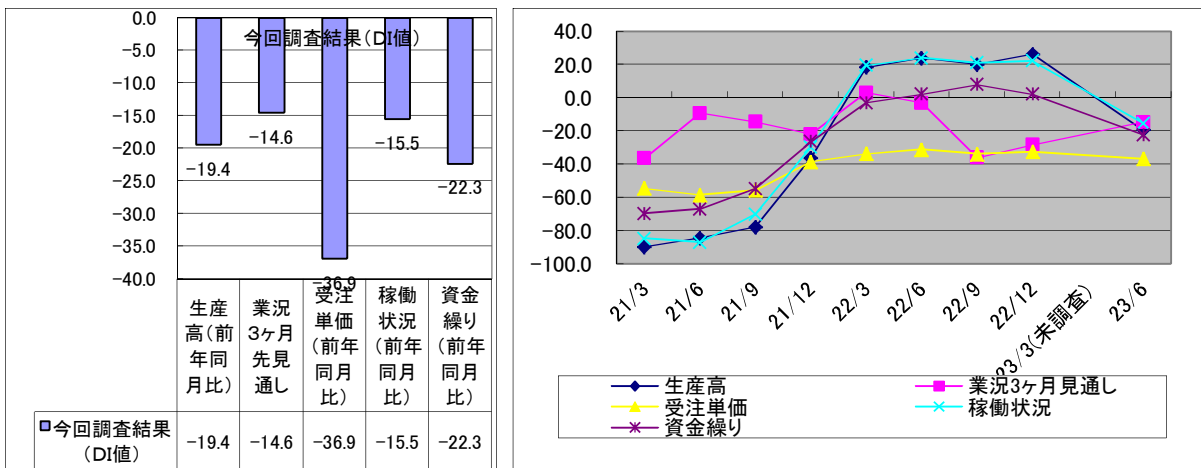
一般機械器具	25	24.5%
金属	21	20.6%
プラスチック	10	9.8%
精密機器	8	7.8%
縫製	7	6.9%
鉄鋼・非鉄	6	5.9%
電気機器	17	16.7%
輸送用機器	9	8.8%



## ■ 全業種総合

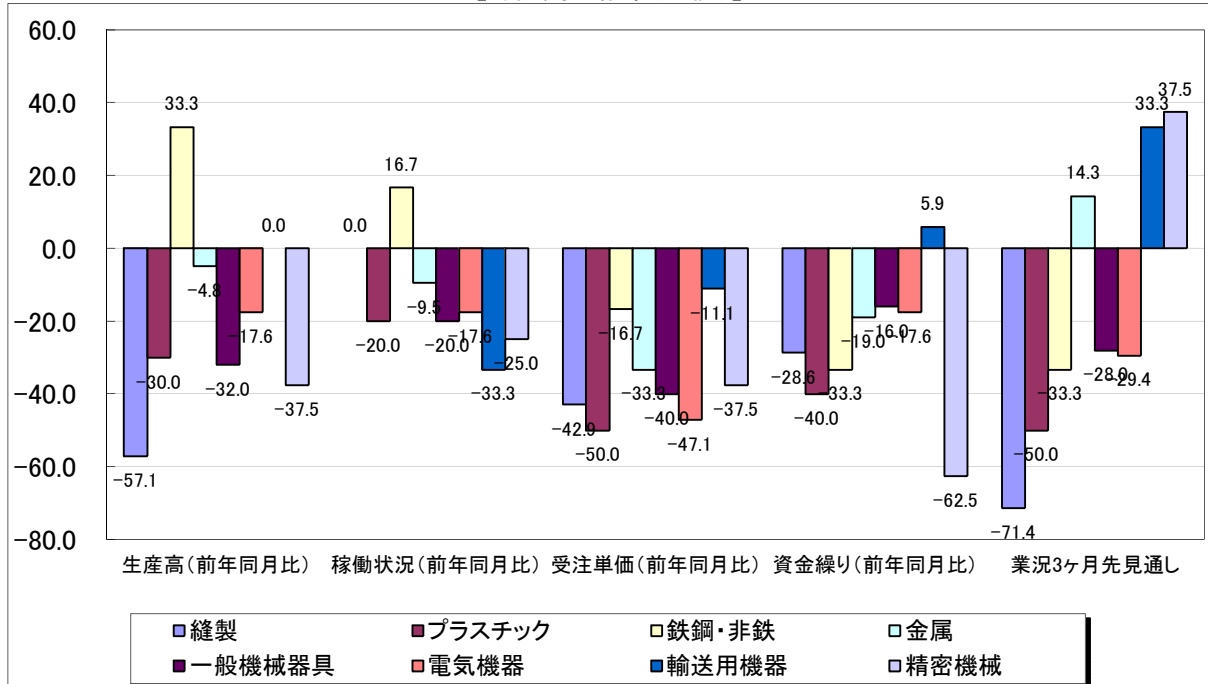
前回調査時から3月の震災を挟み、全ての項目でマイナスを示している。生産高は▲19.4(前回26.3)で45.7ポイント悪化しており、震災以降、発注企業である大企業は生産が徐々に回復してきてはいるものの、下請中小企業まではまだ生産が戻っていないようである。その中で3ヶ月の見通しだけは、▲14.6(前回▲28.4)と、依然数値はマイナスではあるものの、前回調査時よりは改善が見られ、今後の生産高回復の期待感が感じられる。しかしながら、今後の電力不足問題、依然続く放射能問題、それによるリスク分散に伴う産業空洞化等、先行きは不透明であるとの意見も多くあった。

【全業種総合 DI値推移グラフ】



## ■ 業種別

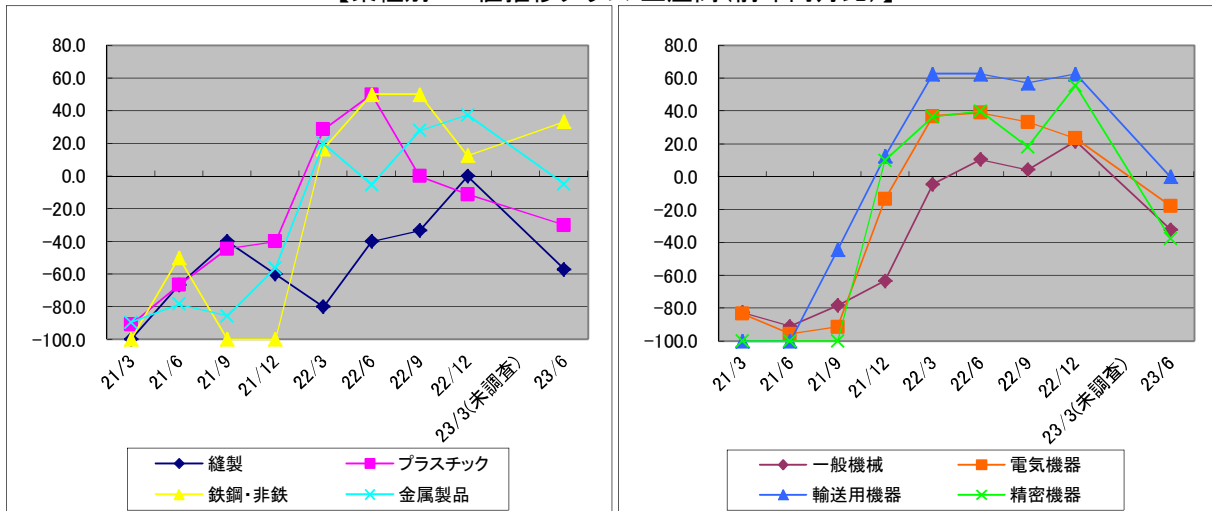
【今回調査結果(DI値)】



## ■ 生産高(前年同月との比較)

震災の影響からか、前回調査時からほとんどの業種で生産高の落ち込みが見られる。特に精密機械が▲37.5(前回55.6)で93.1ポイント悪化、一般機械が▲32.0(前回21.7)で53.7ポイント悪化と大きく落ち込み、プラスからマイナスの値へ転じた。また、輸送用機器も0.0(前回62.5)と、値は何とかマイナスにはならなかったものの、62.5ポイントもの減少となった。唯一、鉄鋼・非鉄だけは33.3(前回12.5)と改善を示し、震災の影響が最小限であったことがうかがえる。

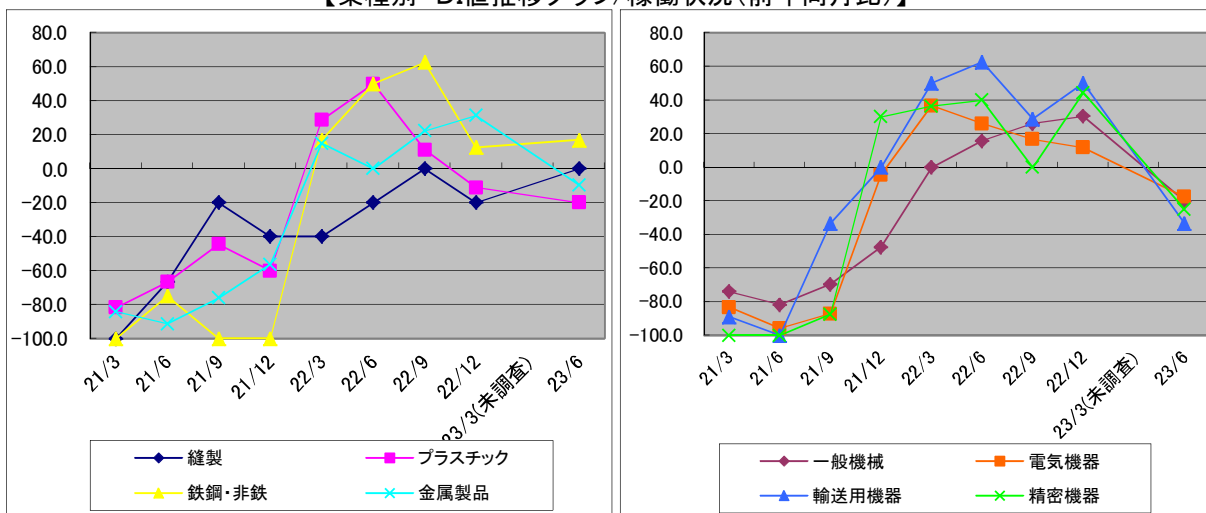
【業種別 DI値推移グラフ/生産高(前年同月比)】



■ 稼働状況(前年同月との比較)

生産高同様に多くの業種で落ち込みが見られる。  
 輸送用機器では、震災直後から自動車の生産がストップしたこともあり、▲33.3(前回50.0)で83.3ポイント悪化し、プラスからマイナスの値へ大きく落ち込んだ。  
 また、金属、一般機械、電気機器、精密機器でも、いずれも前回調査時のプラスからマイナスの値へ悪化するなどし、震災の直接的影響は比較的少なかったものの、間接的な影響が大きかったとの意見もあった。  
 その中で、鉄鋼・非鉄だけは今回16.7(前回12.5)と前回から微増のプラスの値を示している。

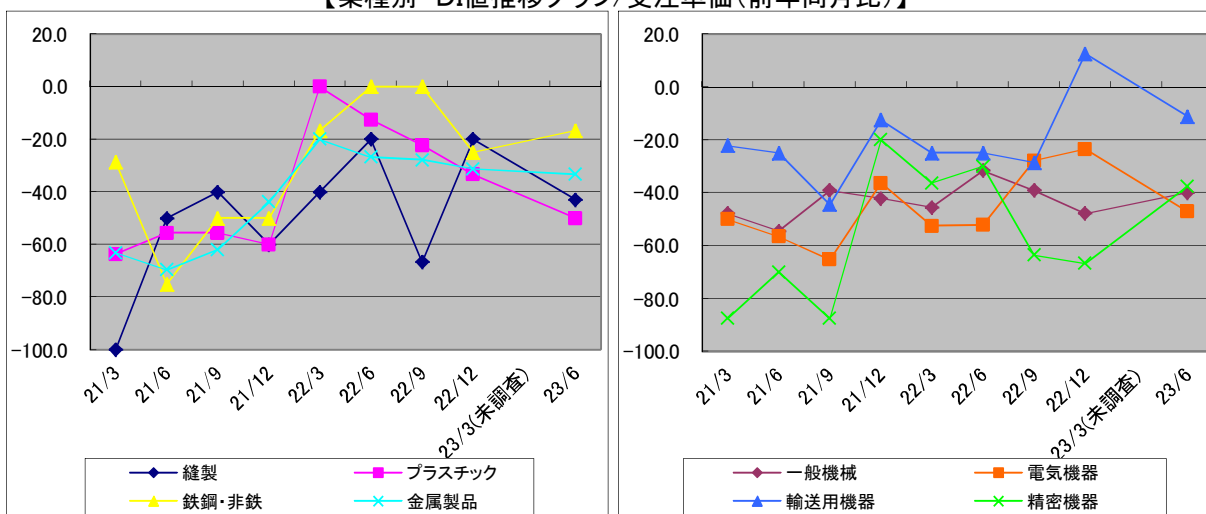
【業種別 DI値推移グラフ/稼働状況(前年同月比)】



■ 受注単価(前年同月との比較)

全ての業種でマイナスの数値を示しており、依然単価は厳しい状況が続いている。  
 特に前回調査時で唯一プラスの値を示していた輸送用機器も、今回▲11.1(前回12.5)と23.6ポイント悪化し、前回のプラスから、マイナスの値に転じている。  
 一方、精密機器は▲37.5と依然マイナスの値ではあるものの、前回(▲66.7)との比較からは29.2ポイント改善となった。

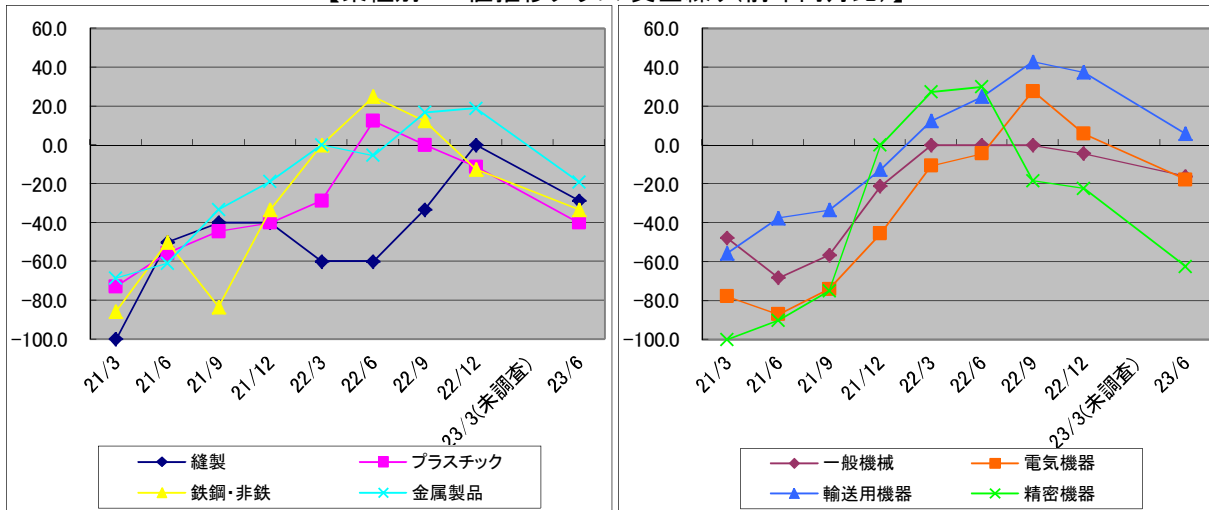
【業種別 DI値推移グラフ/受注単価(前年同月比)】



■ 資金繰り(前年同月との比較)

生産高・稼働状況の悪化に呼応するように、全ての業種で前回調査時より悪化している。  
 金属製品▲19.0(前回18.8)、電気機器▲17.6(前回5.9)は前回のプラスからマイナスに転じており、  
 原材料価格の上昇が、資金繰りに影響を与えているとの意見もあった。  
 輸送用機器だけは5.9(前回37.5)とプラスの値を保っているが、前回から31.6ポイント悪化しており、  
 厳しい状況がうかがえる。

【業種別 DI値推移グラフ/資金繰り(前年同月比)】



■ 業況3ヶ月先見通し

金属14.3(前回▲31.1)、輸送用機器33.3(前回0.0)、精密機器37.5(前回▲11.1)の3業種は大きく改善しており、自動車業界を筆頭に、今後生産が回復し、一転して改善することを予測・期待している。  
 その他の業種も、数値はマイナスながらも、多くは前回より改善を示しており、若干ながら期待感が感じられるものの、縫製業▲71.4(前回▲20.0)は大きくマイナスの値を示しており、今後も縫製業界の厳しさが予想される。

【業種別 DI値推移グラフ/3ヶ月先の業況見通し】

